

新体制日本学術会議発足に当たり、各部幹事の先生方から御挨拶をいただきましたので、御紹介いたします。

江原由美子第一部幹事

ご挨拶

新しい第一部は、これまで3部に別れていた分野が一緒になりました。

多様な専門分野の方々の参加というメリットの一方で、会議運営上の難しさという課題もあるように思います。20期は、部の意味や機能も含めて、今後の方向性を決めていく期だと思います。多くの方々と十分コミュニケーションをとり、新しい学術会議が十全な活動を行えるよう、少しでも力を尽くしたいと思います。至らない点が多いと思いますが、皆さま宜しく願いいたします。

江原由美子

鈴木興太郎第一部幹事

ご挨拶

第20期日本学術会議が多くの期待を担ってスタートして、第一部の広渡部長から幹事就任を依頼されました。予想外のことながら、第18期を経験して今回の改革の背景と経緯を知る機会があったこと、新しい制度と機構のデザインを実装するうえで、私が専攻する経済学というディシプリンが貢献できる - - すべき - - チャンネルがあると信じていることがあいまって、お引き受けすることに致しました。科学者集団を代表して、新生学術会議が21世紀の可能性の開拓に貢献できるように、微力を傾注して努力するつもりです。

新しい学術会議には、学協会という背後組織とのつながりが解消されたことに伴って、機構の上で工夫を要する点があるようですが、この程度の障害に躓くようでは対外的な提言を行なう資格を疑われても仕方ありません。将来の活動の基礎を築くためにも、第20期で工夫の限りをつくして、今回の改革の定着を図るべきでしょう。個人的には、

様々なディシプリンの最高の叡智の担い手と接触して意見交換する機会を得ることを、大いに楽しみにしています。よろしく申し上げます。

鈴木 興太郎

廣橋説雄第二部幹事

ご挨拶

この度発足した第20期日本学術会議に初めて会員の一人に加えて頂き大変光栄に存じておりましたところ、思いがけずも第二部の金澤一郎部長より幹事の指名を受けました。正直なところ、任務の内容をまだ充分把握出来ておらず、とまどいながらも出来るだけのことはしようと腹をくくったところでもあります。総会初日の会長選の進め方について質問させて頂いたのも、素直に、日本学術会議が今後どの様な役割を果たすのかお聞きし、理解した上で最適な方に投票したいという思いがあったからです。

総会での黒川清先生や吉川弘之先生のお話をうかがい、また、会長・副会長そして部長のご挨拶や冊子「日本学術会議の新しい体制の在り方」を読み、今少しづつ理解を深めているところです。おぼろげながら、学術会議がこの複雑で多様な問題を抱える社会/世界に対し、科学者の集団全体を代表していかに関わって行くかという、極めて大きな課題を担っていることが解って参りました。個別の専門領域を通してだけでなく、より広い視点に立って考え、積極的に情報発信をして行く必要が強調されております。

この新しく発足した第二部の最初の仕事は、分野別委員会の下部組織である分科会を決めることで、その為に今所属会員へのアンケート調査が行われています。ここでも、専門領域を越えた共通した課題に取り組む大きな広がりを持つ分科会を設定するべきなのかどうか、検討されるべきと考えております。

第20期日本学術会議の第二部がいかなる課題に取り組み何を実現するか、部長・副部長のご指示のもと、所属会員の皆様のご意見を集約して進む上で、私も微力を尽くしたいと存じます。また、幹事会の一員としての務めを果たす為にも、皆様のご指導を宜しくお願い致します。

廣橋 説雄

鷺谷いづみ第二部幹事

ご挨拶

これまでいくつかの研連の委員を務めさせていただきましたが、はじめて会員となっただけで第二部の幹事を拝命し、多少の驚きとともにその責任の重さを感じております。私は生命科学の中でも研究者数からみればマイナーな分野である生態学を専門としています。生態学は「生物と環境の関係」をさまざまな空間的・時間的スケールと生物学的階層において、また多様なアプローチによって研究する、内部の異質性がきわめて大きい研究領域です。従来は社会との関係の薄い「多様性を誇る純粋科学」でしたが、地球規模でも地域規模でも生態系の不健全化が問題とされ、生物多様性の保全や生態系の修復が社会的課題としてクローズアップされるにつれ、社会的な課題に応える研究を手がける研究者も少しずつ増えてきました。科学の基礎固めの研究と社会が求める課題に応える研究をいかに統合し、サステナビリティの確保という人類的課題と科学の自律的発展の両方に寄与するかは、ここ20年来の私自身の最大のテーマでもあり、今後模索を続けていきます。

学術会議には、きわめて広い学術領域に目配りしてそれらの総合的発展を促す一方で、広範な国民に信頼される科学者集団として、時宜に適った情報発信を介して科学を社会の意思決定や政策に反映させる役割があると理解しています。錚々たる会員の皆様に比べればまことに浅知薄才の身、私とその活動を牽引する役割を十分に果たせるのか、大いに不安も感じておりますが、皆様のご指導を仰ぎながら精一杯の努力をしていく所存でございます。

鷺谷いづみ

河野 長第三部幹事

ご挨拶

私の専門は地球惑星科学ですが、最近国際的に大きな問題になっている地球温暖化、オゾンホール、大規模自然災害（地震、火山噴火、津波等）などはいずれもこの分野に関係が深く、かつ極めて学際的なアプローチを必要とするものばかりです。ICSUなどの活動を見ても、これらは常に優先順位の高い位置にあります。これらの問題に適切に対処するためには、国際的に協調した取り組みが必要なことは言うまでもありません。日本としても、説得力のある議論によって国際社会をリードして、問題解決のために取

り組むことが欠かせません。そのためには、吉川前会長が言われたように、日本学術会議が「適切かつ中立的な助言」を内閣や国会に提供することが非常に重要だと思われま
す。こうしたことができるだけ実現するよう、微力を尽くしたいと考えています。

河野 長

小林敏雄第三部幹事

ご挨拶

海部第三部長のご指名により第三部幹事に就任いたしました。新生学術会議の漕ぎ手の一人として楽しみたいと思っています。18期、19期と学術会議会員を経験し、学術の動向編集委員会や運営審議会にも出席いたしました。社会における科学と社会のための科学、あるいは俯瞰的視点と俯瞰型研究等々を繰り返し見聞きし、遅ればせながら学術会議についての理解が深まってきたところです。しかし、20期は新たな体制での出発であり、“第三部”は理工系の部として存在するものの、総合的・俯瞰的視点に立った学際的・超域的活動を推進することが基本的な責務とされております。部会がどういう役割を果たすのか、学協会との新しい連携の仕方はどうなるのか、進みながら考えることになりそうです。第三部も多士済々、新しく選出される連携会員を加えて広い分野の方々をまとめることは至難のこと、それよりも、それぞれの会員、連携会員の活動を学術会議の活動に結びつけることに努力したいと考えています。

小林 敏雄

江原由美子・第一部幹事の連絡先メールアドレス（新会員の皆様への御連絡）

10月11日付で新会員の皆様に郵送で日本学術会議事務局長からお送りいたしました新体制関係の一連の資料のうち、「幹事会委員のメールアドレス」においては、江原由美子・第一部幹事のメールアドレスについて、その時点で確認がとれていなかったことから、江原幹事の部分のみ空欄で送付させていただきましたが、この度、確認できましたので、新会員の皆様へご連絡いたします。なお、取り扱いにはご注意くださいよう、お願いいたします。

江原由美子・第一部幹事のアドレス：EHRYSK@aol.com

【問い合わせ先】日本学術会議事務局企画課広報担当

(Tel:03-3403-1906, p227@scj.go.jp)

=====

日本学術会議ニュース・メールは、転載自由です。貴団体の学術誌等への転載や貴団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようにお取り計らいください。

なお、御意見等がありましたら、各問い合わせ先まで、お寄せください。

また、メールアドレスの変更等がありましたら、p227@scj.go.jpまで御一報いただければ幸いです。

=====

発行：日本学術会議事務局 <http://www.scj.go.jp/>

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34